

人を思う気持ち

— 秋山 美代 —



「将来の夢は何ですか？」

ある日のじゅ業で出された質問です。私は、考えこんでしまいました。どんな仕事につきたいか、なんて考えたことがなかったからです。なんとなく『人のためになる仕事をしたい』とは考えていましたが、具体的に何になりたいかまでは、考えていませんでした。結局、その日のじゅ業中に答えを出すことはできませんでした。

家に帰っても私は考えていました。

四年生の社会科では、地いきのために活やくした人々の学習をしていたので、参考にしてみようと考えました。いろいろな資料を調べてみると、ある女性を見つけました。「従軍看護婦 秋山美代」と書いてあり

従軍看護婦

戦争の時に軍隊
と行動をとるとも
し、ケガをした
兵隊さんたちの
手当をする看護
師。



ます。

「従軍看護婦。昔の看護師さんか
なあ。」

私は秋山美代さんをもっと知り
たいと思い、歴史民俗資料館へ
行って、調べてみました。

秋山美代は、一八八九年那
珂市額田ぬかだに生まれた。

一九〇八年に日本赤十字
社の看護婦になった美代は、
病気の人のために一日中、時
間をわすれて働いた。そん
な姿がみとめられ、従軍看護
婦になった。

シベリア

ロシアの中央部
から東側の範囲
で、冬の寒さは
厳しい。

そのころ、世界では大きな戦争が起きていて、兵隊さんを助けるために、たくさん看護婦さんが戦場へ向かった。戦場で兵隊さんを助ける看護婦さんを、従軍看護婦という。

とても寒いシベリアという国へ行ったときには、従軍看護婦長として一生けん命、兵隊さんを助けた。

日本にもどってきたときには、災害で苦しむ人を助けるために、日本全国、どこへでもかけつけた。

一九三九年、再び従軍看護婦として戦場へ。兵隊さんのきずを手当てしているとき、ばくはつにまきこまれて亡くなった。四十九才であった。

秋山美代さんのことを調べてみて、人のためにはたらくとは、どのようなことなのか、少しわかったような気がしました。ちよつとだけ、

じゅ業の答えに近づいたように感じました。

次の日のじゅ業で、「将来の夢は何ですか」という先生の質問に、私はすっと右手をあげました。



「那珂市ゆかりの先人たち」より

秋山美代

明治二十二年（一八八九年）那珂市額田東郷ひがしごうに生まれました。明治四十一年（一九〇八年）日本赤十字社に入社後、看護婦として活躍かつやくしました。大正九年（一九二〇年）、日本軍のシベリア出兵せいへいに際し、救護班きゆうごはん九五看護婦長として招集しゅうじつされました。その後も、戦いが起こるたびに戦地へ出向き、多くの戦傷者せんしょうの手当に貢献こうけんしました。昭和十四年（一九三九年）戦傷者の手当をしている時に戦いに巻き込まれ、命を落としました。